

令和元年（2019年）の秋サケの資源状況について

令和元年6月24日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場 さけます資源部

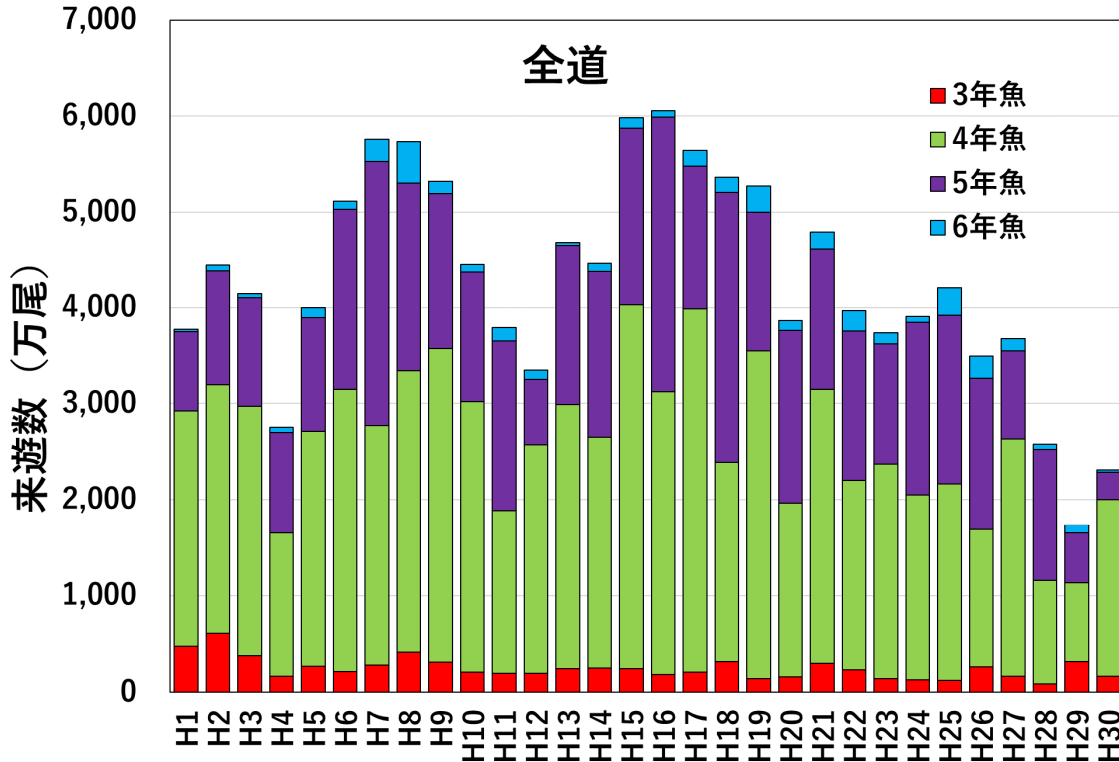


図1 北海道への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

平成30年の北海道への秋サケ来遊の特徴

○平成30年（2018年）の全道への秋サケ来遊数（沿岸での漁獲数と河川での捕獲数の合計）は2,317万尾と、平成以降、最も少なかった平成29年（1,737万尾）に次ぎ少ない数量となりました（図1）。

○年齢別来遊数について、5年魚（平成25年生）は283万尾で、H30の全来遊数に占める割合はわずか12%であり、平成以降、最も少ない数量でした。4年魚（平成26年生）は1,835万尾でH30の全来遊数の79%を占め、平成以降の平均値の8割程度の数量でした。3年魚（平成27年生）は166万尾であり、平成以降の平均値の7割程度の数量でした。

○時期別には、前期が873万尾（前年対比116%）、中期が1,229万尾（前年対比147%）、後期が214万尾（前年対比148%）と、中後期を中心に前年を上回る来遊数でした。

○平成30年の平均目廻りは3.04kgであり、著しく小型でした。5年魚の割合が著しく少なく4年魚中心だったこと、各年齢ともに体重が過去の平均に比べて小型だったことが原因と考えられます。

各海区への来遊状況

○昨年の各海区への来遊数は日本海を除き、前年を上回りました（図2）。

○年齢別には5年魚が非常に少なく、各海区、過去10ヶ年では、1番目あるいは2番目に少ない来遊数でした。一方、4年魚の来遊数は過去10ヶ年平均と同等あるいはやや下回る海区が多かったといえます。

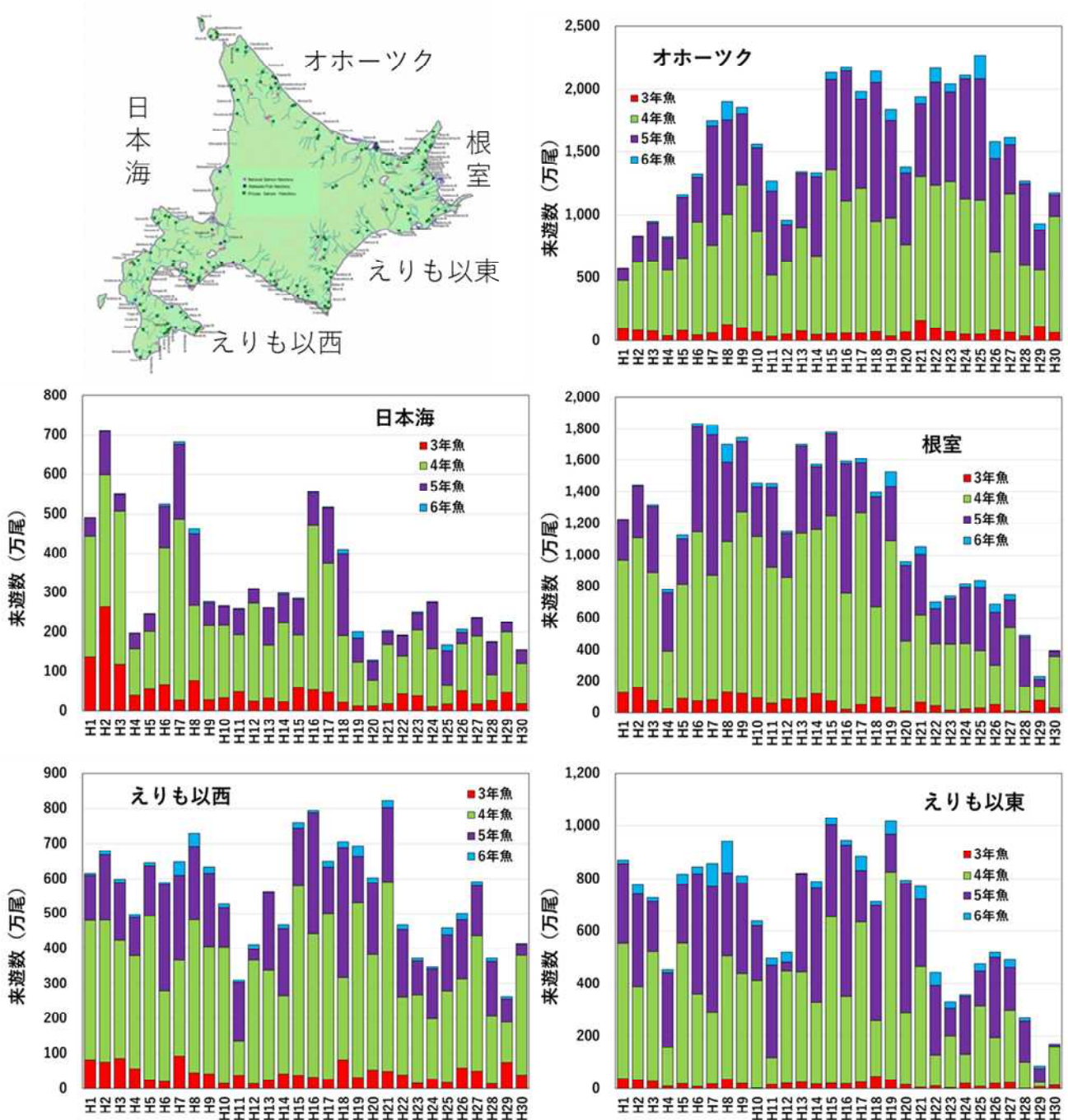


図2 各海区への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

今年(令和元年)の来遊予測

○昨年までと同様にシブリング法という手法を基本に今年の来遊数を予測しました。この手法では、昨年の3年魚の来遊数から今年の4年魚の来遊数を、昨年の4年魚の来遊数から今年の5年魚の来遊数を推定します(図3)。

○平成30年は全道的に4年魚の来遊数が平年並みだったため、今年の5年魚が平年並みの予測となり、全体的には前年(H30)と比較し、やや増加傾向となっています。

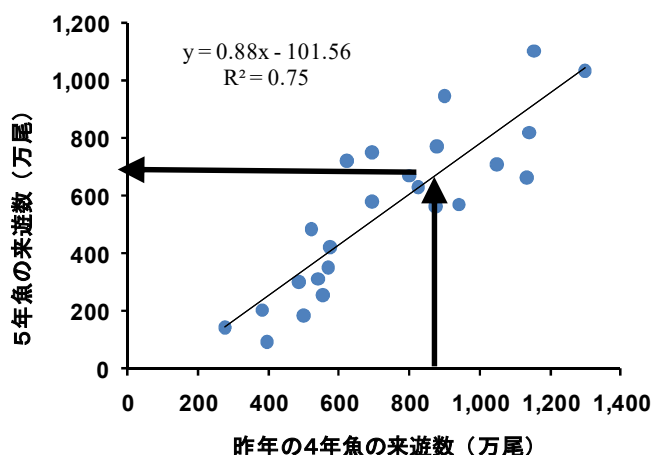


図3 シブリング法(例:A地区)

今年の予測値

令和元年(2019年)の全道への秋サケ来遊数は3,070万4千尾と予測されます。地区別の予測値は下表のとおりです。

海区	地区	令和元年 予測値(千尾)	平成30年 来遊数(千尾)	前年比(%)
オホーツク	東 部	9,157	7,029	130.3
	中 部	4,047	3,088	131.0
	西 部	1,959	1,657	118.3
	小 計	15,164	11,774	128.8
根 室	北 部	4,244	3,249	130.6
	南 部	978	712	137.3
	小 計	5,222	3,961	131.9
えりも以東	東 部	1,429	685	208.6
	西 部	2,017	1,016	198.5
	小 計	3,446	1,701	202.6
えりも以西	日 高	2,386	2,066	115.5
	胆 振	994	768	129.4
	噴火湾	1,053	772	136.3
	道 南	566	555	102.0
	小 計	4,999	4,161	120.1
日 本 海	北 部	725	765	94.7
	中 部	726	516	140.8
	南 部	423	287	147.4
	小 計	1,874	1,568	119.5
北 海 道 総 計		30,704	23,165	132.5